

## 第4回 富山県経済・文化長期ビジョン懇話会 議事要旨

1 日時：平成28年7月15日（金）15：00～17：00

2 場所：富山県民会館8階 バンケットホール

3 出席委員（五十音順）

遠藤会長、一柳特別委員、田中特別委員、岩田委員、梅田委員、可西委員、  
神川委員、河合委員、川村委員、杉野委員（代理）、高木委員、中井委員、永原委員、  
水口委員、吉田泉委員、吉田忠裕委員

<青年部会>

藤井代表幹事

4 議事

(1) 長期ビジョン（素案）

(2) 意見交換

5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、「第4回富山県経済・文化長期ビジョン懇話会」を開催しましたところ、委員の皆様方には、大変ご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。

前回、4月12日の第3回会議では、青年部会から意見取りまとめについてご報告をさせていただくとともに、各委員の皆さまからいろいろなご意見をいただきました。また、青年部会では6月24日に最後の会議を開催していただき、今後取り組むべきプロジェクトについてご意見をいただいたところです。その際に、青年部会の皆さんには、今後は自分たち有志のメンバーで30年後の富山県のためのネットワークをつくって活動していきたいという大変ありがたいお話をいただき、青年部会を設置した狙いの仲間ができたのではないかと考えているところです。

- ・ 今日は最終回の懇話会ということで、これまで懇話会で頂いたご意見、また、青年部会のご議論を踏まえまして、私どもの方で素案をまとめましたのでご報告いたします。まずはこれをたたき台として、皆さまから忌憚のないご意見、ご提言をいただきたいと思えます。今後は、頂いたご意見を踏まえまして、今月下旬から県内3カ所でタウンミーティングを開催し、県民の皆さんからも幅広いご意見をいただいた上で、遅くとも夏の終わりぐらいまでにはビジョンを策定したいと思っております。

- ・ せっかくお忙しい中をご参加いただき、進めてまいりました懇話会ですので、この場での議論、また、取りまとめられたものを踏まえて、ふるさと富山の新しい未来を構想しまして、活力と魅力あふれる富山県、ひいては日本創成、日本再興の一翼を担える富山県ということで、しっかりと次の世代に引き継いでいただくための確固とした基盤をつくり出したいと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

(2) 資料説明

＜事務局より資料1～4＞ 省略

(3) 意見交換

(遠藤会長)

- それでは、本日の素案、ビジョンの視点や将来像のイメージの記載内容について、今回の懇話会の視点から十分であるかどうか、また、重要な視点や報告が抜けていましたら、何なりと行っていただいで、広い観点でご意見をいただきたいと思います。

(A委員)

- 3点ありまして、1点目は、資料1-2に「3 薬都とやま」とありますが、その前の「2 再生可能エネルギー」では日本一を目指すところですので、「薬都とやま」についても世界トップレベルの薬都という、何か一つのそういう野心的目標を掲げてやられたらどうかと思います。そのときに最先端医療、あるいは再生医療等との関連をどのように考えているのか、おそらく薬都の中には医療機器や、いろいろな再生医療がこれからどんどん出てくるので、そういうものに取り組んでいくということをできるだけ野心的にやられたらどうでしょうか。
- 2点目は、グローバル&ローカル 2045「6 ふるさと教育とグローバル教育の融合」に当てはまると思うのですが、一言で言えば、やはり人口減少する地方が活性化するために必要なのは、男も女も学生も含めて若い人にとって魅力があって、若い人が集まるような場所にしていくことです。そういう点からいくと、学生が東京の学校に行っても、富山の企業がインターンシップを受け入れて、そこである期間働けるとか、場合によってはそこに就職できるという形で、留学生も含めてインターンシップと就職がしやすくなるように、地元企業も協力するし、自治体も協力するということで、若い人たちが集まりやすい環境をそこに作ってはどうか、まずは人づくりが大事だと思います。
- 3点目は、IT、インダストリー4.0などと書いてあるのですが、産業の見通しが非常に難しいという感じを持っております。ですから、IoTがものすごく大事だというのは、皆さんもご存じかと思うのですが、世界で一番大きなタクシー会社はUber、世界で一番大きい宿泊業者はAirbnbですが、Uberは車を持っていませんし、Airbnbはホテルを持っていませんが、売上だけは世界一です。さらに、販売店で世界一大きいところはAlibabaですが、持っている商品はゼロです。一体これはどういうことかということ、大きなデータがあって、空いている部屋、空いている車、あるいは欲しい人を結び付けるプラットフォームを持っているところが、今や世界一大きくなっているわけです。また、映画やニュースなどいろいろありますが、一番人気のある、売上世界一のメディアは何かということ、Facebookなのです。しかし、コンテンツを作っているかということ、作っていません。ですから、ものづくりも大事なわけけれども、ものを作っていない者が、ものすごく世界を席巻しているということはどう見るのか、ということです。

インダストリー4.0、あるいはIoTなど、いろいろなAIを結び付けた中で、2045年は大変な時期になると思うのですが、地球の70億人の頭脳を合わせた知能を一つの人工

知能がオーバーするという、その節目が 2045 年だといわれています。こういう時代が仮に来るとすれば、今回、非常に良いことが書いてありますが、将来を見てチャレンジしやすいような環境を富山にもっとつくってはどうか。例えば、「薬都とやま」と言うならば、漢方の薬草は中国からどんどん輸入されているわけですが、たくさんある耕作放棄地でうまく企業と行政が協力してトライアルすると、チャレンジしやすいわけです。そのように将来を見てシナジーが出るような、関連性があるような、チャレンジしやすい風土をつくっていかないと、なかなかしんどいだろうと思います。ですから、民間のやる気のある人と行政が一体となり、役割分担をしてチャレンジしやすい環境をつくる、その一つがトライアル制度であるということを入れておかれると将来、芽が出るのではないのでしょうか。

#### (B委員)

- 全体的な話、結論のようなことになりますが、長期ビジョンということで、これを考えはじめた基本に戻るようになるのですが、確かに 2045 年のことまで考えるということが他にあったかなと。30 年後まで考えるということでもかなり意欲的ですが、あまりにも長期なのでビジョンを出すので精いっぱいという部分があり、欠席されている朝日委員がおっしゃっているように、具体的なことをどこまで言えるかという点、それはなかなか言えませんし、そこまで書いていると 60 ページどころか、600 ページぐらいになってしまいますから、それはある意味仕方のないことだと思います。
- このビジョンには、本当にたくさんの方向性が書かれていて、どこまでできるか分からない。一つの考え方として、例えば先月あるいは今月に起こったこと、イギリスがどうなったかということに一喜一憂して、「どうしよう。ビジョンを変えようか」という話になりがちだと思うのですが、逆にそういったことをある程度織り込んで、それに先手を打っていく。A委員がおっしゃったように、大化けするようなことをしている企業が、日本というよりもアメリカなど、世界にたくさんあるわけですが、先手を打って度肝を抜くようなことを、日本全体もそうだと思いますが、富山でできるのか。先手を打つというよりも、せつかくこれだけ長期ビジョンがたくさん出てきたのですから、現在起こっていることに一喜一憂して振り回されることなく地道に幾つかやるだけでも、かなりのことができます。私は最近、薬都にも関心があるのですが、そういったことを一つ行うだけでも富山はすごいことができると思います。

#### (C委員)

- このメンバーの中では私が一番年長で、過去 30 年、50 年の変化の厳しさを学んできました。これから先 30 年について、先日から皆さんのご意見を聞き、いろいろなことを勉強させていただきました。今日出されたものを見ますと、これだけのメンバーがいろいろ申し上げたことを非常によくまとめているなと感じました。
- 前回の会議で I 委員から、長期的ビジョンというのは道しるべを示すことだというお話もございましたが、この中身で特に私の興味があるのは、人という視点でものを見ますと、例えば人口減少の下で日本一の健康県になろうとなると、当然、高齢者は働くようになっていくわけです。そういうことについて、ある道しるべができていくなという

ことで、私はまとめ方としては相当良いものできたと思います。ぜひ自信を持って、先ほどB委員が言われたように、この中の幾つかをやると、また変わっていくということに結び付くと思います。

**(D委員)**

- 先ほどA委員が薬都についてお話しされたのですが、われわれの業界では「世界の薬都」になろうと頑張っております。それぐらい志が高くないと駄目なのです。と言うより、最近ではグローバル対応でないと商売ができない。国内向けだけに限定しているような製薬業はもう市場の限界がみえている。今は取引先も国内・外資ともに海外のいろいろな国に事業展開しているので、(各国の規制当局対応など)これから開発するものは全部グローバル展開を含めて考えないと作れない。一方、伝統産業である売薬(配置薬業)を日本遺産に登録しようという一面もあります。グローバルになろうという面と日本遺産を目指そうという面の二極あるということが、ここにはよくまとめてあるのではないかと感じました。

**(遠藤会長)**

- 例えば具体的に言ってみますと、先ほど一柳委員からご指摘もあったのですが、世界の薬都という視点でいかがでしょうか。

**(D委員)**

- 薬業連合会では、世界の薬都にしようではないかと。先月も、知事、国会議員の皆さんで PMDA のアジアトレーニングセンター研修所を設置いただきましたが、これが一つの切り口になってグローバル化していくのではないかと期待しております。

**(遠藤会長)**

- 分かりました。お二人からご指摘のあった「世界に」というのを、ぜひ事務局で検討していただくことにしましょう。
- それから、売薬を日本遺産を目指すという動きもあるのですか。

**(D委員)**

- そのとおりで、日本遺産に富山の伝統産業である売薬を登録しようという動きもあるということです。世界戦略をやろうという面と日本遺産にしなければいけない、歴史を残していこうという二面性があるということが、この中には出ているのではないかと。先ほどA委員が言われたように、世界の薬都になろうというふうに書き換えていただきたいと思います。

**(遠藤会長)**

- 文化でいろいろな形の遺産、富山の大事なものを残すと言われていています。今の売薬もキーワードとして一つの大きな文化であるという記載があってもよいと思うので、その点について県の考え方はどうでしょうか。

(石井知事)

- ・ 「世界の薬都」というのは、まさに結構だと思います。また、日本遺産を目指したいという動きがあるのも事実ですし、必ずしも矛盾しないと思うので、今後の医薬品業界がさらに発展、飛躍していくにはグローバルにならざるを得ませんし、グローバルになっていこうとすれば、世界を目指さなければいけないので、世界の薬都を目指していくのですが、同時にこれまでの伝統的な配置薬のシステムを発展途上国で部分的に導入したいという動きもありますから、それは必ずしも矛盾しないかと思います。

(遠藤会長)

- ・ 世界に開かれた富山の文化をベースにした新たな世界戦略という形のまとめになればということで、よろしく願います。

(B委員)

- ・ 具体的な話をD委員にさせていただいたので、私自身が最近学んだ話として、富山の家庭薬配置業が、なぜ鎖国の江戸時代に海外からの薬を輸入することができたのか、あるいは実際に作っていたのは農家の方であるということも富山の方でもご存じないということもあります。そういう文化や県民性がこれからの30年にも生きて、参考にできると思います。知事がおっしゃったように、例えば海外展開するときに「実は、家庭薬配置業はこんなに良いのですよ」と、一つのことで幾つもおいしい思いができるようなことにも発展できると思われまます。そういった点で、ビジョンだけではなく、具体的に何か展開するときにそういったことが言えるのではないかと思います。

(E委員)

- ・ いろいろな方がいろいろなご意見を出されたのを、よく一枚の資料にまとめたなど感心したのですが、本当にこれ全部やるのかなというのが率直なところです。また、よくあるフレーズ、よく聞くフレーズにちょっと富山らしいものがくっついたようなものばかりではないかというのが、正直なところです。

本当にこれだけ全部やるのかということ、よくあるフレーズだということ併せて考えますと、本当にやりたいことは何なのか、正直に言って私には分からないのです。これだけ全部やるというのはあまりリアリティを感じませんし、どれ一つ取っても、富山でないと駄目なのかと言われると、そうでもないものが多いような気がしています。

- ・ 富山県というのは、企業で例えれば良くも悪くも中小企業ではないかと思っています。中小企業というのは、やはり「これは絶対に誰にも負けない」という一点突破に近いような会社こそ伸びていくのではないかと思います。そうであれば、背負うべきもの、切るべきものは切り、我慢するべきところは我慢して、これは富山が強いのだ、富山は本当にこれで生きていくのだというものを示すべきではないかと思っています。例えば、最近、飲食店でも総合的なレストランや飲み屋さんには衰退していて、その中で伸びているのは「うちは鶏肉がすごいですよ」「お刺身がすごいですよ」というところで、この店はこれだ、というものがいないところは伸びないのです。富山県、地域も同じようなこと

ではないかと思しますので、もう少し本当に富山でないとできないこと、本当にこれで生きていくのだという覚悟を示せるものに絞った方がいいのではないかというのが、正直な感想です。

**(遠藤会長)**

- そういう意味で、20年後、30年後を見据えて言えること、特に産業としていかがでしょうか。

**(E委員)**

- 前回の会議のときにも申し上げたのですが、私は富山で何かしなければいけないということではないのではないかと考えています。富山の人がどうか。人材供給基地として、あるいは富山の人はこの能力を持っているのだという形にして、富山から外に出ていっても、将来的には富山に恩恵が帰ってくる。例えば、華僑や印僑のようなイメージですが、そういうことでもいいのではないかと。それが本当に開かれた状態ではないかと考えているのです。

今、ここに出されているものというのは、開かれたと言いつつも、何となく富山でやらなければ駄目だという内向きのような感じもしていて、そのあたりの違和感があるので、私としてはもう少し人を育てる面に重点を置いてほしいという気がしています。

**(遠藤会長)**

- 今日は青年部会を代表して藤井さんにご出席いただいております。いかがでしょう。

**(藤井青年部会代表幹事)**

- E委員がおっしゃること、ご指摘も大変よく分かりますが、一方で、これは私の個人的な意見もありますけれども、2006～2007年当時、例えばシャープは液晶に集中特化することによって大変な称賛を浴び、日立はポートフォリオがあまりにも散漫であると結構言われていたのですが、10年たった今、全く逆の事態になっています。結局、一点集中がいいのか、それとも幾つかのポートフォリオをターゲットにするのかというのは、結果論になるのかなと思った場合、30年のビジョンと考えると、比較的総花的なところでこのようにまとめざるを得なかったのかなというのは、青年部会の意見を聞いている中でもありました。特にビジネスに特化する委員は、何を明確にするべきだというお話が多かったのですが、文化や教育という面、特に女性陣からの意見で言えば、少し総花的にはなるものの、長期的な視線で考えるということで、青年部会の意見をかなり入れていただいたのですが、そういう意味では今回の総花的な形のビジョンのまとめ方というのは、私としては青年部会の一つの意見の集約としてこうなったのではないかと考えております。

**(遠藤会長)**

- その点に関しては、いろいろな視点があり、もちろん一つにまとめられるものではありません。ただ、私見で言えば、富山というキーワードにあまりこだわらないで、30年

後の世界がどうなっているかを考えることも大切だと思いますこのような視点も含めてご意見を頂きたいと存じます。

#### (B委員)

- ・ E委員から、人を育てるということであれば、印僑あるいは華僑というものであってもいいのではないかというお話がありましたが、実際にそれは既に行っているような気がします。私自身が富山の高校の先生とお話ししたときに、富山から出ていった人間ということにされてしまって、ある意味、すごく申し訳ない気もするのですが、進学校の人たちはほとんど県外に出してしまうのです。しかし、高校までの18年は、富山で学んだこととか、富山の気質といったものをDNAのように内に秘めるような形で育てていただいた部分もあります。そういった点は、もしかしたら長期ビジョンの人を育てるという中に、富山が人を育てたという既に行っていることを実はこの中に含んでいるのではないかと思えてきました。

#### (F委員)

- ・ 私は最初に全部さっと読ませていただいて、すごいな、こんなに上手にまとめられてと思いました。

B委員がおっしゃったように、富山で教育された人間とか、やはりDNAというものが本当に富山の良さ、富山の人としてこういう良いところがあるということで、それは強みであって、では、弱みは何かということもちゃんと書いてあります。その中で、私自身はやはり人の教育が一番大事だと思うのです。30年後であろうが、20年後であろうが、人の心というのは絶対に変わらないのであって、その中で富山の経済・文化がどう伸びるかということが大事なのだと思いますので、これで全体のイメージはつかんだつもりでいます。そして、若い人であれ、高齢の人であれ、県民にどのようにこれを理解してもらうかというのが、とても大事ではないかと思うのです。それは私自身、経済人の端くれのような立場からですと、もっと足元を見つめて、ものづくりをきちんと原点からとか、まず基礎の大事さを一番よく知っているつもりなので、教育も基礎が大事ということになると、やはり小さいときからの教育が一番大切だと思います。その教育を受けた人たちが、文化であれ、経済であれ、全ては環境が大事だということがそこで言えるのではないかと思いますので、教育の大切さをもう少し強くどこかに書いてもらいたいというのが一つです。

- ・ 今日、京都からサンダーバードで富山へ帰ってきたのですが、金沢で乗り換える不便さというのは本当につらいのです。欠席委員のご意見にも書いてありますが、「富山は関東圏に入った」と。東京に行く方が楽になりましたから、名古屋や大阪、京都へはなかなか足が向かなくなってきました。そういうことになると、やはり関西圏で仕事をする方もおられますし、せつかく日本地図のど真ん中にある県なので、早く新幹線がつながるように県民を挙げて取り組めばいいと思いました。
- ・ 帰りの新幹線はつるぎに乗ったが、お昼頃に降りて周りのいろいろな人を見たときに、変わったなと思ったことが、ご夫婦だと思われるリュックを背負った夏山登山に行かれる人が多かったのです。やはり立山という山、そして、魚と海です。この間、港につい

て寄稿を頼まれたので、富山県の港について一生懸命勉強させてもらおうと、すごいなということと同時に、港と子どもの時の歌とがリンクして、年代を感じました。人・地域づくりでふるさと教育とグローバル教育を融合させるといことがちゃんと書いてあるので、それが一番大事かなと。そういうことで、幅広い人間性、富山県にとどまらない人たちであつてもちゃんとしたふるさとを知っている人はやはり悪いことをしないような気がするの、そういう意味でこれはよくまとっているかなと思います。

#### (G委員)

- よくまとめていただいておりますが、やはり女性の活躍推進というところから見ると、富山県は真面目で謙虚で、県民性でしょうか、女性があまりUターンされないと聞きます。ですから、今は都会の方で頑張つて富山に貢献していただくという方法もあるのかなと思つております。

一方、女性の就業率が高い割には、富山県の人あまり管理職になりたくないとか、産休に入つたら1年ぐらいでお辞めになるとか、そういう方も多いと聞いております。そういうところで、富山県は男女共同参画があまり進んでいないのではないかなと思つていますので、そういうことを少しどこかに書いていただきたいなと思います。男性もあまり協力的ではないということで、これが富山県の特徴なのかもしれませんが、ちょっと後れているかと思つています。30年後には当たり前になっていると思つていましたが、進みようが富山県は遅いような気がしますし、青年部会でもいろいろ認めていらつしやるところもあるようですので、一言書いていただくことをお願いしたいと思つています。

- もう一つは、今は高齢化社会が進んで、その上で助け合いができるものという書き方のような気がするのですが、そうではなくて、高齢化社会になったから助け合いが必要なのではなく、人間は生まれたときからその土地に住む人たちが助け合いをしていかなければいけないのです。青年部会の方たちも、年齢的に言えば、自分の親たちにだんだん介護が必要になってくるということで、地域のことという思いを持っていらつしやるような気がしました。もっと子どもが小さいときから地域で育てるという方法もありますので、子どもたちもぜひ地域でみんなが助け合つていかなければならない。私たちが子どものころも、親からご近所の方に迷惑を掛けてはいけないとよく言われましたが、助け合つて生きていこうという言葉はあまりなかったような気がするの、ぜひ子どもたちに小さいころから助け合つて生きていくのだということ、富山県らしく、小さいときからの教育に入れていただければと思います。

#### (遠藤会長)

- 子どものときから人を育てるということは、原点です。子育ての原点のところ、富山を知っているということがベースにある人を育てる。子どもをどう育てるかという中での独特の選択ということ強く言われたのだと思つています。その辺をどこかに入れていただくということで、いかがでしょうか。

#### (A委員)

- F委員も、G委員も、内にいる富山の人言葉が代弁されました。私は全然違う大阪



にいて、富山とは何の縁もなく、ずっと12年間お手伝いしているのですが、このビジョンの中でちょっとトーンが強いのかなと思うのは、富山がどうするかというのが割と書かれているのですけれども、これは外の人も見ると思うので、願わくば、外から見て魅力ある富山を打ち出すことが大事だと思います。

- それから、人材教育で優秀な人を育てるのも大事なのですが、外国も含めた外の優秀な若い人が富山に魅力を感じて一緒に働こうと優秀な人が富山に引き付けられる、こういう魅力を上げるというのも、外の人からすれば、そうあってほしい。ちょっと批判があるかもしれませんが、いわばシンガポールのような感じです。教育をものすごく大事にして、世界中のトップレベルの人をみんな集めてしまうという、気持ちでやったらどうかと思います。
- 高齢化社会という問題があります。高齢化先進国になっていますが、これはどちらかというと、将来は年寄りが増えて働く人が少なくなって、年金が持たない、医療が大変だという暗い感じの話ばかりなのですが、ここにはせつかく薬もあるし、医療もあるし、ロボットもあるしということで、老人にも社会にもあらゆる可能性を、技術も含めたイノベーションを系統的に提供して、世界一進んだ高齢化の新しい対応をする社会システムで老人を癒やし、効率的な国をつくり上げれば、世界がもう高齢化に向かっていきますから、日本が良いモデルを韓国、中国などの世界みんなに示せます。そういう一つの視野の下で、高齢化にうまく適応した新しい安らぎと癒しを持って健康な社会を、いろいろなアイテムも含めて、今後の教育もあると思いますが、そういう新しいシステムをつくり上げれば、世界に貢献できるモデルになるのではないかという発想で考えたらいかがかなと思いました。
- それから、E委員の発言ですが、僕はどちらかといえば違う考えを持っていて、事務局はよくまとめられている、まずは鳥瞰図を持つと。どこかに絞れとおっしゃるのは分かるのですが、これにどういう優先順位を付けるか、予算も人も時間もみんな限られている中で優先順位をどう付けるかというのは、まさに知事が行動計画にどう落とし込むかだと思います。ですから、まずは大きい総合的な視野を持って、こういうものが因果関係で結び付いている中でどこに強みを持たせることができるかというのは、知事が考えることだと思います。

#### (遠藤会長)

- 先にF委員とG委員が言われた、富山の未来、どこの地域でも一緒ですが、昔ながらの人と人の付き合いの流れの中で生み出す社会の文化というか、生活というものを大事にしようという言葉は大事なキーワードだと思います。同時に、世界から見て魅力ある、人が集まるような富山にしたいとおっしゃった。

高齢化の問題もありましたが、知事は健康寿命日本一を目指すとおっしゃっています。ここのキーワードとして、元気な高齢者、高齢者が生きがいを持って過ごせる富山県という、先導県になるという言葉がここに入っていると思います。

また、ターゲットをどれに絞るかは知事の責任でしょうということももっともで、それがE委員の言われた若者がどこにターゲットを求めているかということが県政の方に反映されればよいということだと思います

(H委員)

- ・ 素晴らしくまとまった構想で、全体のイメージをつかんで、望ましい未来を実現するためには多くの改革と努力が必要だとあらためて思いました。その原点は、先ほどからお話ししていらっしゃる「人」だと思います。何事も積み重ねの中に新たな発想や転換があり、やはり人材育成が重要であると考えます。自分の分野からですが、芸術文化を通して子どものころから感性や創造性豊かな人を育てるプログラムの展開は、とてもよく組み込まれていると思います。

子どものころからと言うと、学校教育の中で実施されることが主になると思いますが、学校教育の活動の中で芸術に特化することは難しいとも思います。ですが、興味を持って小さいころからチャレンジし続けてきた芸術的なものを高校に入ったら、やめる子がたくさんいるので、実現できたらと思うのですが、県立高校に専門的な芸術学科などを設けて、次の段階へのつなぎとなることを考えていけばよいのではないかと思います。本当にいろいろな分野で人を育てる方法はあると思うのですが、芸術・文化はそれこそ一つ一つの積み重ねが非常に重要だと思うので、そういうこともひとつご理解いただきたいと思います。

(遠藤会長)

- ・ たくさんの課題がありますが、具体的にこの文章の中に入れてくださいということですか。

(H委員)

- ・ 入っているのですが、例えば、高校受験のためにやめてしまう子がたくさんいる。東京都立総合芸術高等学校のお話を聞くと、素晴らしい世界に羽ばたくような人たちも出ているので、そこまでいかないとしても、やはり興味を持っていろいろなことを吸収してきた義務教育の期間が終わった後、専門的な分野に進むに当たり、高校時代はもっと意味があるように過ごせるのではないかと思います。

(遠藤会長)

- ・ 広い形で活躍する、いろいろなところに自分の可能性、未来をかけられるような教育の形も必要だということですね。文化的なところというか、芸術的なことも検討していただきたいと思います。

(I委員)

- ・ 前回、この議論に参加していて、まさしく長期ビジョンというのは、たまたまそこで道しるべという言葉が浮かんだのですけれども、あえて道しるべと言ってしまった手前、それで貫くとしたら、私が追加することは特に今は浮かんでおりませんが、立山には立山の道しるべ、富士山には富士山、エベレストにはエベレストの道しるべがあるだろうと。そういう意味ではどこも同じと言われる面もあるかもしれないけれども、確実に必要なものは今回示されているのではないかと感じております。

- 9つのビジョンの展開方向に27の構想例が出ておりますが、これを見ながら、もし子どもだったら、若者だったら、女性としてとか、それから高齢者だったらという視点から見たときに、全部の役を担うことはできないと思いますが、自分がどれか一つのポイントを担ったり、サポートする側に回ったりできないかなと見ると、かなりのものが網羅されているなど。

具体化はこれからだと思います。ここに全部具体例を盛り込んでいくということではできないと思うので、構想例には具体例が書いてありますが、その道しるべに沿ってだんだん山の中に入っていきなり、谷に下りていきなりしたときに、そこに何かあるのかというのは、景色が全部違うわけですから、そこで考えていくということで、ぶつかった課題に立ち向かっていく力をそれぞれがつけながら成長していくことを目指していく。それで30年先の若者たちが、ある程度リスクも避けられる、そして決して命を落とさないという道しるべになればいいのではないかと考えています。

- 最近、テレビで印象に残ったことが二つあります。一つは、熊本だったと思うのですが、県外の大学に出ただけけれども、休学して熊本に戻って、自分の親が被災した後を手助けしていて、初めてふるさとに愛情が芽生えたと。出るまでは出たい、出たいと思っていたのだけれども、戻ったら、ここを何とか守らなければいけないと思ったという大学生の話がありました。そういう時は大いに休学していいのではないかと考えましたし、外に出て県外から富山を見ることの必要性も感じているので、そういうことができる世代が富山を俯瞰できるものとしての道しるべであってもいいと思っています。
- もう一つ強く感じたのは人工知能の世界です。進化していくのは当然なので、それが人間の生活の手助けになったり、地球全体の手助けになったりしていくことは重要なことだと思うのですが、誤解をおそれずに言えば、人間の能力を高めていくためにロボットと将棋や碁をするのもいいと思うのですが、人工知能がレンブラントの絵を分析して同じ絵を精巧に再現しているのを見たときに、やはり人間が生きていくというのはプロセスなのではないかと思ったのです。結果ではない、同じものができたからいいのではなくて、そこに至るさまざまな地道な文化の積み重ねとか、手作業をしていくことの大切さを、富山の文化では忘れていないということアピールしていく。結果だけをたくさん生み出していくのではなくて、そのように人を育てていく。文化や経済に振り回されて育つのではなくて、しっかりとそういうものを手段として、人間主体で経済や文化をちゃんと成長させていく。ものに振り回されない人間と言うと変な言い方ですし、ダイナマイトも使いようによっては人の命も奪うし、人のためにもなる。青色発光ダイオードも使いようによっては人のためにもなりますが、健康を害する面もあるとしたら、人はものに振り回されてはいけないと思います。若者には50年たってもそういうスタンスでものを考えていくということをも身に付けてほしいという願いを持ちながら、これは付け加えることではなく、あとの細かいところは若者も一緒に考え続けていくことが必要ではないかと思っています。

#### (石井知事)

- 例えば管理職を希望しない女性が多いとか、就業率が高い、産休を取られた後に辞める人が多いというのは、やはり企業の環境と、それからどのような生き方が望ましいか、

別に一つの生き方がいいというのではなくて多様な生き方があっていいのですけれども、小さなころからの教育が大事だというお話がありました。

いずれにしてもご指摘の件は、どこがいいのか先ほどから話していたのですが、例えば資料1-2に「(9) 地域の生産性、問題解決力（地域力）の向上」とありますけれども、会長がおっしゃったように、人としての生き方とか、当然備えておかなければいけないことというのは、ある意味で前提になって書いてあるので、ここに入れるのがいいかどうかは分かりませんが、どこか最終的な取りまとめの総論のようなところで、今言われたような点を少なくとも打ち出ささせていただきたいと思います。

- E委員からもいろいろお話がありました。いずれにしても、これは富山県が皆さんのお知恵をいただいて作るビジョン、構想ですから、例えば富山県に生まれ育った人が、主にここで成長してグローバルプレイヤーになる、東京やニューヨークやパリで活躍する、なかなかふるさと富山に帰ってこない。そういう人がいても、私は仕方ないと思います。その人たちが活躍されて人民のために大いに貢献してもらえたら、それはそれでいいではないかと思えます。

ただ、みんながみんなそうではなくて、地域としての富山県というものには、ここに生まれ育ったからそう思うのかもしれませんが、やはり他の地域にない特色、魅力があるので、いろいろな生き方がありますが、ぜひここに誇りを持ち、愛着を持って、東京あるいはニューヨークに出てもいずれは戻ってくる。あるいは、そういう立場で応援してもらってもいいし、一貫してこの富山という地に根を下ろして大いに活躍してもらってもいい。富山の場合、男性も、女性も、お年寄り、熟年の方も、若い人も、みんなそれぞれが輝いて生きてもらうには、どういうビジョンを持って経済や文化、人づくりを考えていったらいいかということ議論しているので、ある程度総花的に見えるかもしれませんが、広角打法でいろいろな可能性、方向性を示して、おっしゃるように来年はその中でどこをやるのか。全部一遍に取りかかれませんか、それは緊急性、優先度を付けて判断していくということかと思えます。

例えば産業政策の中でも、E委員の会社のウォータージェットの技術は本当に素晴らしいものだと思うのですが、同時に例えばD委員のところも持っている医薬品製造機も素晴らしいと思います。いろいろな素晴らしいものがあるので、そこは委員の力でそれぞれ大いにイノベーションしてもらおうと同時に、それを行政ができる範囲でサポートしていく。そういうことを通じて富山県の総合力を養うということではないかと思えます。その中で、当然、取捨選択はあるのですけれども、このビジョンの中でそれをうまく言い表すのは困難なので、広角打法でやりながら、毎年、毎年選択していくということかと思えます。

#### (遠藤会長)

- 人として生きるベースのところ、バックグラウンドのところのご支援を頂いて、細かいところまで目が届くようにしようということです。ぜひ その辺のご支援を頂きたいと思えます。

(J 委員)

- ・ 総花的という言い方はちょっと誤解がありそうなのですが、総花なら総花なりに本当に全部カバーしているかどうかを、事務局において、今のいろいろな発言の中から、やはりこういう部分が落ちているかもしれないというものをに入れていただいた方がいいのではないかと。落ちているかどうかの判断はできていないので、もっと総花的なものというなら、徹底的にこういう部分は残したい。

ただ、そうは言いながら、富山県の話ですから、私どもの会社に例えると、私どもの会社もこれから将来、長期的にどうなっていきたいのかという議論を 10 年、15 年前にかなりやったのですが、そのときのテーマはコアバリューで、今日までやってこられた強みとは何なのだろう、コアバリューというのは何なのだろうという話の一つと、もう一つはこれからそのコアバリューを維持できるかどうか。維持し、さらに強い状態で発達、発展できるかどうか。そういう観点からコアバリューをかなり取り上げてそぎ落としながら、われわれの今のコアバリューとはこういうものだということを実は持っていて、それを世界中の社員に伝えるという活動をしているつもりです。実は今週の月曜日から今日の午前中まで、ファスナーの世界戦略会議をやっていて、500 人ぐらい集まって毎日会議詰めだったのですが、そこにかかなりの国の人たちが来て、ここが日本ではファスナーの開発をしているところなのだ、製造の中心なのだ。ここがもっと強くなると、皆さんのところがなかなか強くない。どのようになったらいいのかとって散々議論をして、今日も喧々諤々やっていたのですが、やはりいろいろな角度からいろいろな意見が出てくるわけです。価値観が違うので、「それはあなたの地域でやった方がうまそうだね」というものはそこでやらせてもらえばいいし、われわれがやった方がうまそうだというものはわれわれがやるべきだと思って、その辺のことをかなり露骨に話し合いながら、すみ分けをしながら、分担しながら、3 カ月後、半年後にまた会いましょうということで進めているのです。そういう話を散々してきた後で、急に 30 年後という話に入ると、うちは今、次の 4 年をどうするかということで議論しているのですが、そんなことを言っても仕方がないのだけれども、かなりいろいろな意見が出たし、事務局がご苦労されてよくまとまったと思うのですが、あとは富山県というのをどのように打ち出すのか。そのときには総花ではいけない、総花ではない富山を打ち出さなければいけないと思っております。これが最後というときにこんなことを言って大変申し訳ないのですが、知事さんがまとめられると思いますけれども、事務局の皆さんでもう一回見てもらって、最後のまとめに向かっていただければありがたいと思います。

(遠藤会長)

- ・ ご指摘のところと私自身も同じようなことを思ったのですが、この長期ビジョンは 2045 年を展望すると言うのですが、ここに書かれている具体的ところは、ここ数年の具体的な対策かなという感じがします。実は策定の趣旨のところでも事務局とお話しさせていただいて、富山県の将来の展開方向、資料 1-1 の本編概要の②に「富山県の将来像とその展開方向を掲げ、当面又は将来に講ずべき政策を組立て、展開していくため、『富山県経済・文化長期ビジョン』を策定した」という文章を入れていただき、ただ 30 年後ではない、今やるべきことがあるでしょうという趣旨を込めていただいたと

思っております。J委員のご指摘のとおり、30年後にどうなっているか、そのまま書けと言われても無理なところがあると思いますから、そのような趣旨だろうと思っています。

#### (K委員)

- いろいろ難しい問題がありますが、僕が考えているのは非常にシンプルなことで、今の強みで30年後も強みであるものが、強みだろうと思うのです。それは何かと考えながら議事録を読ませていただくと、L委員が言われた「信頼をつくる力」というのが非常にフィットしました。今日も最初に知事がおっしゃったので一層心に残ったのですが、人と人との信頼を構築する力というのが実は富山県人は他県より強いのではないかと、僕は一つの自信を持っているのです。富山にいらっしゃる方は「何も良いもんはないっちゃ」とおっしゃいますが、それとは裏腹に人間の間での信頼関係を構築する力がもともと非常に優れているので、その良いところをもっと増やすようにすれば、30年後は先ほど藤井さんのおっしゃった日立の話ではありませんが、そういう憂いがなく、総論的ではありますが、いいのではないかと思います。富山県というのは技術力もあり、ものを作る力も大きい、同時に人と人をつなぐ力、接着力のようなものがDNAのどこかにかなりあるのではないかと気がしているのです。それはL委員の言われる売薬の力でもあり、それから海外公演を長年続けている富山県芸術文化協会の人との交流のやり方だと思うのです。それは小泉博という方ですが、やはり信頼構築力が非常に強いと思うのです。具体的に言うと、それは相手に対して誠意を尽くすという一言で終わってしまうのですが、それが先ほどから言われている、人が大切であるとか、人を育てる教育が必要だということにも合致するわけで、今既に強みであるものを30年後も強みとするというのが、非常に説得力のあることではないかと思います。
- 蛇足ですが、そういう意味で知恵を活かせる人、いわゆるプロデューサーというのが、亡くなられた久世光彦さんをはじめとして、NHKプロデューサーの屋敷陽太郎さん、それから今「真田丸」を作っておられるプロデューサーの方も確か富山県出身です。そして、若い方では須藤晃さんも活躍しておられます。映画監督にもプロデューサーの資質が必要だと思いますが、本木さん、細田守さん、あまり知られていませんが市井昌秀さんという方もいらっしゃいます。これは他県にない、非常に大きく豊かな人材だと思います。その基となっているものとして、やはり信頼をつくる力というものがあるのではないかと思います。そういう点を、3、5番になるのだと思いますが、ぜひ入れていただきたいと思います。

#### (遠藤会長)

- ありがとうございます。いわゆるプロデューサーとしてたくさんの方々が活躍しておられる、そういう方が出てきていただけるような構想がほしいということですので、ご検討いただきたいと思います。

#### (M委員)

- 全体として事務局の案は非常にしっかりしていますが、この27の構想例が全部うま

くいったとしても、生活できないと県民は安心できないと思うのです。現在の110万人の人口が、将来、30年後は何万人になるのか、多分、今の推計よりもっと減るような気がします。人口が減ること自身はやむを得ないとは思っただけけれども、将来何が問題かという人口構成なのです。年寄りばかりが増えて行って子どもがいない。それから、富山市ばかりに住んで、いわゆる限界集落が出現する。平成の大合併で富山市の人口は多くなっているのですが、合併前的大山町や大沢野町、八尾などはもう生活できない、買い物をする場所がないという非常に大変な状態になっているのです。市町村も考えなければいけないところはあるけれども、県も市町村に対してちゃんとしてくれないかなと思うのです。そういうところをないがしろにして、こういう格好のいい話ばかりしていても駄目なのではないか。

- あるとき思ったのは、高校を卒業して、東京の大学へ行くと、近年は、男の子はUターンする子が多いのだけれど、女の子はいったん出たら帰ってこない。なぜかという、就職するところがないと言うのですが、私は違うと思うのです。多分、富山に帰ってくる魅力がないのだと思います。東京の方が楽しいというか、魅力があると思ったから帰らないのです。ですから、この27の構想例の中に、若い女性が富山に帰りたい、富山に住みたいと思うような魅力を、アップするものを入れたらいいと思うのです。東京の大学に行った男の子には、向こうでいい女性を連れてこいと、そうでないと、子どもはできません。女性がいなくては、人口は増えませんよね。表へ出さなくてもいいので、県で内々にでも検討してくださいということです。

#### (遠藤会長)

- 根源的な話をさらりと言われました。知事は十分にお考えのところでしょうし、まさに課題と言えます。社会構造の問題ですが、大事にしていかなければならないご指摘だと思います。

#### (N委員)

- 30年後の夢というか、花の種はしっかりまかれているのかなと思います。富山県にはまだ100万人、2045年の時点になってもやはり80万人いるわけで、芸術が得意な人もいればビジネスで頑張る人もいて、いろいろな人がいてそれぞれあるので、どうしても花の数が増えるのはやむを得ないのかな、県民1人ひとりがこの中で花を咲かせていくというのがいいのかなと思って見ていました。
- 1ページ目にも書いてあるのですが、その花を育てていく土壌、ベースについてもう少し何か書けないかと思います。というのは、東京では既に町内会は一部崩壊状況。富山でも町内会々員が減ってきています。しかも、昔は雪が降ったら高齢者の家の前は近所の人みんなで雪を除けたが、今は市役所に電話して、「高齢のばあちゃんが泣いとる。除雪車来てくれ」と言っただけで自分の家の前も除雪してもらおうというのが散見され、地域という花の土壌が壊れつつある。この記述は人の教育も含めて、信頼、今のような環境で教育が続けられる、町内会が互助の精神があるという前提で書いてある。一方、東京では町内会の役員に当たりそうになったら町内会を脱退するということが起きておりますし、富山でもそういう傾向が見られ、私も少しお世話させていただいて理

解しましたが、大変苦勞しております。

ですから、このベースをどうやって維持していくか。「人、地域が輝く 2045」の中に書いてありますが、もう少し何か書けないか。コンピュータで言うと、アプリケーションはよくできているのですが、ベースの Windows のところがもう少ししっかりしないとダメです。ここが崩れると地域崩壊になってしまうのかなと思っています。キーワードは、やはりすみ分けや役割分担、それから地域力を保持するために何ができるかという観点ではないかと思います。

#### (O 委員)

- 先ほどからの話とずれるのですが、30 年先のアウトプット、まとめというのはなかなか難しい。ある程度総花的になるのは、それはそれで仕方がないのかなと思います。しかし、ある程度まではまとめなければならないということから言うところのまとめ方でいいと思うのですが、これでいいと思ったら、先ほど J 委員が言われたように、まだ抜けているのがないか、そういうものを見つけ出していく。
- もう一つは、この展開方向です。ビジョンをつくった後、大事なことはどうやって展開していくかということになってきます。今、こうやってまとめたものでも 27 もあって、やり切れないのではないかと、いろいろなことが出てきます。

でも、これを見ていると、経済、文化、人づくり、新たな価値創造といった方向が出ていますが、ダブっていることがたくさんあるわけです。展開するときにそれをまとめて、時系列で「今はここをすぐにやらなければならない」とか、そういう手法を取っていけばいいのではないかと思います。例えば「薬都とやま」とありますが、今、日本でも地方でも高齢化が進む中、健康で、働くこともできるということが非常に大事なわけです。保険の問題や社会保障の問題などからいっても、健康であるということは非常に大きな要素です。そういう中でいくと、健康寿命日本一、それから生産年齢、高齢化していく中で働ける高齢者、この三つには因果関係がありますから、展開していくときにまとめて絞り込んでいけば、できるのではないかと思います。

人材育成、教育という言葉もあちこちに散らばっています。これも教育や人材育成というカテゴリーに絞り込んで展開の仕方を考えていく。その展開の仕方の資料として、私はこれはこれでいいのかなと思っています。ビジョンは作ったのですから、あとはこれを具現化していくときの展開方法、進め方によって、無理なのではないかというものがつづせるのではないかという思いでいます。

#### (遠藤会長)

- いろいろな形でチェックすべきところはチェックして、大きな流れとしては基本的によろしいのではないかと、あとは具現化していくところに関して目配りをお願いしたいということだったと思います。

#### (P 委員)

- 基本的にはこういう方向にならざるを得ないのかなと思っていますし、何か問題が起きれば、その都度修正をかけていくということしかできないのかなと思っています。



ただ、それぞれの基本は「協力」であろうと思っております。信頼や助け合いなど、そういうものは社会がある価値観を共有しているからこそ、なし得る技です。今の世の中がそういう世の中かという、アメリカのトランプ氏のような考え方もありますし、イギリスの EU 離脱のように、これまで一定の教養あるいは知的な枠組みが抑えていた部分が全部ほころびてきたという感じがしています。もちろん背景には格差社会があるのかもしれませんが、不満をあおる、あるいは他の民族や宗教を徹底的に批判するといったことが公然と行われるような社会になったように思います。まずはこの 2045 年の富山県の姿、そのもとにあるみんなの心は一体どうなっているのかということ非常に考えます、それはなかなか文書化できないとは思いますが。

- 子どもの貧困率が非常に高くなってきて、全国平均で 6 人に 1 人の子どもが年収 200 万円未満の家庭の子だといいます。全て平等でなければならないとは思ってはいませんが、高等教育を受ける機会が貧困のために奪われるというようなことがあっては、2045 年をどうするかという問題以前のことになってしまいます。ですから、そういうところはきめ細かく目配りをお願いしたいと思います。

#### (A 委員)

- 将来をどう見るかというのは、確たる見通しは誰も立てられないと思うのです。ただ、言えることは、IT がものすごく進むと、「アラブの春」もそうですが、いろいろなところで情報格差だけがなくなってきました。今まではトップだけが持っていた情報を、今やみんなが持っているわけです。その中でグローバル化、競争が起こると、勝ち組と負け組が必ず出てきますが、負け組はだんだん格差を強く意識しはじめます。そこで民主主義で国民投票などいろいろなことをやれば、勝ち組は一部で負け組が多数、そして情報格差がない中で一票入れるとなるとトランプ現象やイギリスの現象のようなものが起こる。そういう時代になってきています。

IT 自身が社会のインフラになって、いろいろな今まで体験していない世界が出てくる。そういう中でつくるビジョンには、本当にこうありたいということしか、はっきり書けないと思うのです。ですから、そこはそことして仮説として置いておいて、時々修正をかけていくということが、どうしても不可欠ではないかと思えます。

従いまして、ビジョンができて終わりではなくて、実際にどう展開するのか、実行計画はどうするのか、予算の問題、人の問題、時間の問題を含めて優先順位をどう付けるのか。その次には、これを個人の行動に結び付ける仕掛けは一体どうするのか、行政だけではとてもできない、そういうところまで入り込んでいけないといけないという大変な作業がまだあると思いますが、取りあえずの出発点としてはこれを仮置きして、こうあればいいというような夢、目標を求めてみんな頑張ろうよということでスタートされたらどうかと思います。

#### (B 委員)

- 何回目かに既にお話ししたとは思いますが、キーワードということでもう一度考えたところ、一つこの中で少し説明といいますか、ビジョンの中であまり高く出てきていない言葉で、ビジョンでは「9 地域の生産性、問題解決力（地域力）の向上」という

ことで、地域づくりといったことだけに話が当てはめられているのですが、日本は課題先進国です。そうであれば、富山が頑張っ課題解決先進県になれるところはいろいろあるだろうと思います。

かなり楽観的なことを申し上げるのですが、10年後、20年後、ましてや30年後においては、例えば限界集落や高齢化というものは、A委員がおっしゃられたとおりITというものを使えばかなり解決されるのではないかと。10年後には自動運転の車が当たり前になっている。それから、周りに人がいなくても、ネットで注文すればドローンが荷物を運んでくれる。地域が崩壊したといっても、インターネットでテレビ電話のような形で皆さんと顔を合わせることができる。地球の裏側までできるかもしれないとなると、一体何を悩んでいたのかということになってしまう。とは言いつつも、それをやるためには、やはり課題を解決していく必要があります。富山だから世界で最初にできることはおそらくあるでしょうし、そういったことをやれば、今度はグローバルに展開できます。自分たちで一生懸命世界に向かってアピールする必要はなく、ロコミのような形で、「ああ、富山はこんなことをやっているのだ。すごい。ぜひ教えてください」と、日本だけでなく世界からお願いしてきてもらえるようになります。

- 先ほど、県民性とか、富山にはこのような良いところがあるというお話がありました。私自身は富山にいないのですが、「ああ、Bさんはやはり富山人だよ」と言われますが、自分ではどこが富山人なのだろうかと。富山から離れても、自分は一体何が強みなのかよく分からないのです。それが分かるように解析、説明してもらえ文章があったら、元気が出てきますし、課題がたくさんあって世の中の先行きは暗いと思うよりも、一歩ずつでも解決に向けて進む案があったら、30年後と言わず、5年後ぐらいに「こんなことが解決できたよ」と言えることが出てくると思います。私がどれだけできるか分かりませんが、できると思います。

#### (遠藤会長)

- 両委員からありましたように、課題解決に向けて、その具体的ところは当然ながら時代と共に修正が必要ということを前提にしてということだと思います。今日ご欠席の朝日委員と稲垣委員、田中委員からも事前にご意見をいただいているのですが、事務局でそれを含めて考えてもらいたいと思います。
- 私から一言申し上げるとすれば、経済、文化、人・地域づくりという三つのパーツに分けてあるのですが、そのベースにある人の心、AIではない人間力、人として生きる力、あるいは富山の環境、人の生きる環境、このことに関するマインドをまとめる文章が、もう少し必要ではないかと思いました。全体の序文として一部入れていただくことも検討願います。

また、今回の長期ビジョンは、参画したメンバーが30年後を見据えて、若い世代の皆さんにメッセージとして伝えたいものであるということも、文章の中に含めたいと思います。私たちが大事だと思って議論させていただいたことですので、事務局でぜひまとめてください。

知事より一言いただきたいと思います。

(石井知事)

- それぞれ大変貴重なご意見をありがとうございました。それぞれごもっともなご意見だったと思います。最後に会長がまとめられたのですが、ベースにある人間力ということをしっかり文章にしてほしいという点は、大事なところかと思えます。
- 30年先というと、どうしても広角打法にならざるを得ない面があるのですが、それはそれとして、あまり漏れがないようにしていく。同時に、富山県というフィールドをベースにしていますから、あらゆることを盛り込むのは無理なので、できるだけ富山という現場に即して広角打法で考えられたらということです。これを実行に移すときには地域計画的なものが必要です。富山県としても全国知事会としても政府に働き掛けて出てきた地方創生戦略で、こちらは5年間の計画ですが、政府がぜひ10月までにつくってくれということで、実際に昨年10月に一遍つくったのですが、もともと若干時間が足りなかった面もありましたし、今年の3月に長期ビジョン懇話会で出てきた議論の視点も入れて、実は地方創生戦略の手直しを既にしています。こういうことは今後も出てくると思いますし、また、もちろん各論では毎年の予算のところでも考えています。
- A委員からも、予算措置もそうなのですが、最終的には行政が全部カバーできるというよりは、この富山というフィールドにいらっしゃる個々の県民、企業など、いろいろな皆さんの、各論の実際の行動がないと実現しないことがすごく多いので、そういうことまで引き出すような、ご協力いただけるような、あるいは自発的に大いにやってやろうではないかという気持ちになってもらえるような仕掛けをしていきたいと思えます。
- B委員が言われた課題解決先進県というのも、おっしゃるとおりだと思いますので、そういう考え方がちゃんとできるようにしたいと思います。それから、J委員からは、長期の計画も大事だけれども、5年ぐらいの計画が一番いいのではないかと行っていらっしゃるような気もします。言うなれば、5年ぐらいの地域計画に漏れがないというか、その判断を誤らないためにも、実は20年後、30年後に日本という国あるいは世界がどうなっているかを考えて、そこからイメージして地域計画をつくるという視点ももともと持っておりますので、そういう形でしっかりつくっていききたいと思います。
- いずれにしても、皆さまのご意見をいただいて私自身も大変啓発されましたし、一生懸命汗をかいてやってくれた職員も、このテーマをやることで、みんなそれぞれあらためて勉強させていただいたかと思えます。いただいたご意見を踏まえて、またしっかり取り組んでまいります。大変ありがとうございました。

(遠藤会長)

- 知事ありがとうございました。また、4回にわたりまして、昨年の10月以来お世話になりました皆様方におかれましては、ありがとうございました。
- 今後は、この案について、県民の皆様の意見の意見をいただいたうえで、事務局でまとめて、最後は会長一任ということとさせていただきますと思いますが、案文については皆様にお送りさせていただき、ご意見があった場合には、事務局の方でお聞きしたり、ご相談をさせていただくという手順でやらせていただきたいと思います。そのような形でご異論ございませんでしょうか。

(「異議なし」との声)

- それでは、改めて、ご参加いただいた皆様に感謝を申し上げます。

(4) 閉会 石井知事

- 皆様には、お忙しいなか何度もご出席いただき、またその都度貴重なご意見をありがとうございました。今日いただいたご意見やこれまでのご意見を活かして、ビジョンの組み立てを行いたいと思います。これから、県内各地でのタウンミーティングを経て、夏の終わりにはビジョンをまとめたいと考えております。

また、ビジョンを示すだけでなく、中期的な計画や毎年の予算編成、様々な仕掛けに活かしていかなければならないので、誠心誠意頑張ってまいりますので、今後もひとつよろしく願います。今日はありがとうございました。